

平成24年度 文部科学省 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業
「産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実」

平成25年度 内部評価結果

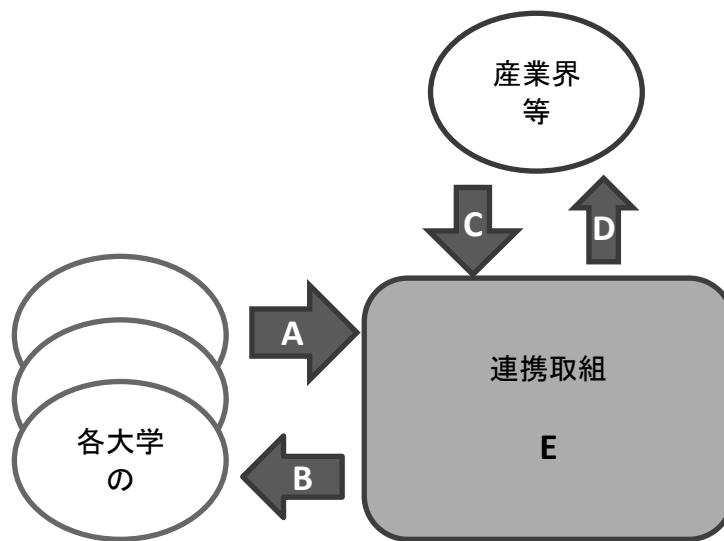
平成26年3月

内部評価委員会

内部評価の観点について

○内部評価は、以下の5つの観点で評価することとする。

- ①連携取組が遂行できているか(E)
- ②大学の取組が連携に生かされているか(A)
- ③連携の取組成果が大学に還元されているか(B)
- ④産業界等や産業界ニーズが連携取組に取り込まれているか(C)
- ⑤連携の成果が産業界に還元され、大学の取組に対して理解が進んでいるか(D)



平成24年度 文部科学省 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業
「産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実」

大学別自己評価票

大学名	25年度																
5：成果があった、4：やや成果があった、3：どちらともいえない、2：あまり成果がみられなかった、1：全く成果がなかった																	
評価内容	項目	和歌山大	府大	兵庫県立大	追手門大	大阪音大	大阪工大	大阪成蹊	関西外大	摂南大	帝塚山	芦屋大	大手前	神戸学院	音楽短大	平均	
1	学生	3	4	4	4	5	4	3	4	2	5	3	4	3	5	3.6	
	本事業の大学の反映	①各校以外のプログラム（他校、連携）に参加することで、社会で求められている能力について意識し、今大学で学ぶべきことが理解できるようになった															
2		②各大学の学生リーダーになり、合同フォーラムの企画運営に関わった学生がリーダーシップを学内で発揮できるようになった	4	5	4	2	5	4	4	4	4	5	4	4	3	5	3.9
3	大学	5	4	4	5	5	4	5	5	4	4	3	4	4	5	4.1	
	企業	①本連携取組で設定している4つの取組テーマに対して、積極的に関わることでできた															
4		②産業界ニーズを継続してカリキュラム、教育手法・手段にいかす体制づくりができた	4	4	4	4	4	4	5	4	4	3	4	3	4	3.7	
5	産業界等との連携協力	①産業界と一緒にテーブルで議論しあうことで、産業界ニーズを把握し、教育につなげていく道筋が明確になった	4	4	4	4	3	4	5	4	4	4	4	4	3	3.7	
		②大学の学修と人材育成について、企業の理解が深まった	4	3	4	2	3	4	3	5	3	3	4	5	4	3	3.4
6	連携への提供と大学への還元（A、B）	①本連携取組によって構築した産業界人材が活用できた	3	5	4	2		3	4	2	4	3	3	-		3.1	
		②各大学独自の産業界との連携が拡大・深化した	4	5	4	4	4	3	4	5	4	4	4	4	4	4	3.9
7	継続性	①大学の課題や成果を連携取組へ提供できた	4	5	4	4	4	4	5	4	4	3	4	4	4	4	3.9
		②本連携の取組成果を大学に還元できた	4	4	4	3	3	4	4	5	4	4	4	4	3	3	3.6
8		③本取組成果が大学の教育改善及び体制整備につなげることができた		4	4	3	3	4	5	4	3	4	4	3	3	3.4	
		①本連携取組によって、継続的な大学間連携を維持、強化することができた	4	3	—	5		4	4	5	3	3	3	5	4		3.7
9		②本連携取組によって、継続的な産業界等との連携を維持、強化することができた	3	3	—	5		4	3	3	3	3	4	3		3.3	

評価委員会からの改善提案（自己評価は、1～5の5段階で評価）

■テーマⅠ 教育カリキュラム体系構築委員会

◆評価できる点など			
○14大学のカリキュラムの収集及びアンケート調査ができた点 ○キャリア教育担当教員の新規雇用の現状や基礎的な人間力育成の体系的なカリキュラム等、課題の抽出ができた点 ○積極的な大学からの情報提供があった点 ○抽出された課題から、キャリア教育担当教員の教師塾のような具体策を検討し、次年度試行しようとしている点			
H24年度改善提案に対するH25年度の対応			
◆今後の課題、期待点など	H25の対応内容	今期到達点	自己評価
キャリア教育の新規採用教員の産学協働による事前の育成制度について具体化、試行を期待	1年かけて課題を検討。人材の在り方の検討	☐ 事業実施（課題解決） ☒ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	3
各大学のカリキュラム事例のHP掲載の実現	事例概要シート作成。各大学から提出された事例を検討し、モデル化	☐ 事業実施（課題解決） ☒ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	4
キャリア教育の義務化の中で、教員体制、FDへの対応について検討を期待	テーマⅢと連携実施	☒ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	4
4年間の学修と専門との関係でキャリア教育が形成されるよう検討を期待	在り方検討の中で、課題抽出	☐ 事業実施（課題解決） ☒ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	5
各大学の教育目標に照らし合わせたキャリア教育のカリキュラム体系をどう形成していくのかについて検討を期待	モデル化検討実施	☐ 事業実施（課題解決） ☒ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	5
学生の反応、評価等についても意識したカリキュラムについて検討を期待	モデル化について委員会内で現状を提供。テーマⅣと連携	☐ 事業実施（課題解決） ☒ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	4

評価委員会からの改善提案（自己評価は、1～5の5段階で評価）

■テーマⅡ 産官学地域協働委員会

◆評価できる点など			
○14大学及び産業界から第一段階の情報収集ができた点 ○ミスマッチの意味についてコンセンサスができた点 ○課題として、①ヒューマンスキルの要素における具体的基準、②業種や職種で異なる求める人材像の違い、が抽出できたこと			
H24年度改善提案に対するH25年度取組に対しての自己目標			
◆今後の課題、期待点など	H25の対応	今期到達点	自己評価
不足する産業界ニーズの抽出及びその調査を期待	産業界に対するアンケート調査を実施する。 ・4, 5, 6月に調査準備 ・7, 8, 9月に調査実施 ・10, 11月に結果を分析する	☐ 事業実施（課題解決） ☒ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	事業実施 5
ヒューマンスキルをどう捉えるかについて検討を期待。また、学生が自主的、主体的に学ぶことのできる力をヒューマンスキルと関連づけての検討を期待	・産業界アンケート調査の中でヒューマンスキルのとらえ方についてコンセンサスを得る。 ・学生の自主性、主体性をヒューマンスキルのレベル評価に加える。	☐ 事業実施（課題解決） ☒ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	事業実施 4
「若手で活躍している人たちは、大学時代どんなふうに過ごしたか」について、多様性を重視した調査について検討を期待（※取組全体へ移動）	産業界に対するアンケート調査の中で調査できる方法を検討する。	☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☒ 課題検討中 ☐ 課題未着手	

評価委員会からの改善提案（自己評価は、1～5の5段階で評価）

■テーマⅢ 教育手法・手段開発委員会

◆評価できる点など			
○多くの大学からインターンシップやPBLの特色ある事例収集ができた点 ○14大学の事例収集や課題についてヒアリングを実施した点			
H24年度改善提案に対するH25年度取組に対して			
◆今後の課題、期待点など	H25の対応	今期到達点	自己評価
インターンシップやPBLの類型化を期待	「取組3.3 IS・PBL（アクティブラーニング）の定義・類型・意義の再設定」で対応	☐ 事業実施（課題解決） ☒ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	4
IS、PBLの課題抽出を期待	「取組3.1 IS・PBL現状把握のための再調査・分析」で対応	☐ 事業実施（課題解決） ☒ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	4
「PBLの最後は座学に集約する」と言われるが、PBLをどう理論化するかについて検討を期待	「取組3.3 IS・PBL（アクティブラーニング）の定義・類型・意義の再設定」と「取組3.4 教育コンテンツ・教育手法の開発・共有」で対応	☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☒ 課題検討中 ☐ 課題未着手	4
IS、PBL等の14大学による共同FD、相互公開授業の検討を期待	「取組1.2 教員への合同研修：PBL型授業・IS運営、指導についての研修」と、「取組1.3 インターンシップ報告会・PBLの授業などの相互見学を通じた、意見交換、授業研究」で対応	☐ 事業実施（課題解決） ☒ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	4
自大学のプログラムを他大学の学生に相互提供することの検討と試行の実現を期待	「取組2.1 IS・PBLの一部乗り入れ（委員会全体としては取り組まないが、可能な大学のみ実施）」で対応	☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☒ 課題検討中 ☐ 課題未着手	3
ISやPBL等の大学の事例発表に対するアワードの検討及び実現を期待	「取組1.1 IS・PBLの取組を学生が発表するコンテスト（学生による準備・運営）」	☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☒ 課題検討中 ☐ 課題未着手	5
合同IS、合同PBLプログラムの実現を期待	「取組2.2 産官学連携による合同PBLのためのモデル・体制作り」で対応	☐ 事業実施（課題解決） ☒ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	4

評価委員会からの改善提案（自己評価は、1～5の5段階で評価）

■テーマⅣ ICT活用委員会

◆評価できる点など			
○委員参加大学からICT活用の情報収集ができた点 ○課題の抽出ができた点 ○4大学のICTの活用の仕方がまったく異なり、経験知の共有ができた点			
H24年度改善提案に対するH25年度取組に対しての自己目標			
◆今後の課題、期待点など	H25の対応	今期到達点	自己評価
ループリックの更なる検討を期待。合わせて、学部・学科の特徴を活かした指標の検討も。	今年度は、ループリックに関して必須項目と選択項目の組み合わせて構築できるモデルの構築を目指している。選択項目の組み合わせにより、様々な学部学科、さらには学力レベルなどの違いも含めて対応の幅の広いモデルの構築を目指す。	☐ 事業実施（課題解決） ☒ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	2
各大学のもっている専門によって評価が違って来るが、どこに評価の共通項を出していくかについて検討を期待	同上	☐ 事業実施（課題解決） ☒ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	2
自主的、主体的に学び、社会に立ち向かっていける学生が育ったか、を評価、支援するICT活用について検討を期待	評価活動を支援・促進するための事例集の作成を検討している。今後、事例の収集と選別、事例集への推敲をすすめる。	☐ 事業実施（課題解決） ☒ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	4
評価についてテーマⅢとの関連が深くなることから、テーマⅢとの連携を期待	各大学などで実施済みのコンピテンシーの情報知恵供依頼及び試行モデル利用の協力依頼を実施する。	☐ 事業実施（課題解決） ☒ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	3
全国で評価を支援する効果的なICT活用を行っている事例の調査を期待	調査項目などでは、連携を図っていきたい。	☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☒ 課題検討中 ☐ 課題未着手	3

評価委員会からの改善提案 (自己評価は、1～5の5段階で評価)

■取組全体

◆評価できる点など			
○学生リーダー会が活発に活動し、本事業に貢献した点 ○14校による連携の場ができて、連携による経験知の共有ができた点 ○文部科学省からフォーラムに参加していただき、貴重な示唆をいただくことができた点			
H24年度改善提案に対するH25年度取組に対しての自己目標			
◆今後の課題、期待点など	H25の対応	今期到達点	自己評価
学生リーダー会が活発に活動することを次年度も期待する	今年度も学生リーダー会2期生を推薦していただき、継続実施することが決定。	☒ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	5
合同フォーラムにもっと多くの企業、自治体に参加してもらえようようにしてほしい	12月の合同フォーラム開催に向け、企業の協力のしかたについて、連携会議等で相談し、企業の参加をもとめるようにする。	☐ 事業実施（課題解決） ☒ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	4
「若手で活躍している人たちは、大学時代どんなふうに過ごしたか」について、多様性を重視した調査について検討を期待（※テーマⅡから移動）	産業界に対するアンケート調査の中で調査できる方法を検討する。 →実施しないこととする	☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☒ 課題検討中 ☐ 課題未着手	-

評価委員会からの改善提案（自己評価は、1～5の5段階で評価）

■テーマⅠ 教育カリキュラム体系構築委員会

◆評価できる点など

- ・参加14大学の協力のもと、キャリア教育カリキュラムをつぶさに点検・評価し、その成果を大学に還元できたこと。
- ・キャリア教育の体系的なカリキュラム作りに向け、科目の構成を分類するとともに、実際行われている講座の内容・要素を抽出し傾向を把握することで、全体的なキャリア教育のあり方に迫ることができていること。

H25年度改善提案に対するH26年度取組に対しての自己目標

◆今後の課題、期待点など	H26の対応内容	今期到達点	自己評価
産業界のニーズをモデルカリキュラムに反映させること		☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	

評価委員会からの改善提案 （自己評価は、1～5の5段階で評価）

■テーマⅡ 産官学地域協働委員会

◆評価できる点など			
・ ヒューマンスキルについて大規模な調査・分析が完了したこと			
H25年度改善提案に対するH26年度取組に対しての自己目標			
◆今後の課題、期待点など	H26の対応	今期到達点	自己評価
調査結果を各大学と企業に還元し、その成果を活用してもらう		☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	
プラットフォーム構想づくりをさらに推し進め、体制整備につなげることができるようにする		☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	

評価委員会からの改善提案（自己評価は、1～5の5段階で評価）

■テーマⅢ 教育手法・手段開発委員会

◆評価できる点など

- ・事例収集をふまえ、合同FD、IS・PBLグランプリ、授業の相互公開などを具体化させ、着実に実施できたこと。
- ・手段、手法について、連携大学相互に学びあう広がりができたこと

H25年度改善提案に対するH26年度取組に対して自己目標

◆今後の課題、期待点など	H26の対応	今期到達点	自己評価
プラットフォーム構想を基盤とした体制整備を進めること		☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	
モデル学習プログラム作りの推進を期待		☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	

評価委員会からの改善提案 （自己評価は、1～5の5段階で評価）

■テーマⅣ ICT活用委員会

◆評価できる点など			
・ 14大学に対してICT活用及びコンピテンシー調査を実施し、ICT活用事例及び評価の情報を収集できたこと			
H25年度改善提案に対するH26年度取組に対する自己目標			
◆今後の課題、期待点など	H26の対応	今期到達点	自己評価
ICT活用と評価についての事例集をまとめることを期待		☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	
ICT活用委員会の当初目的であるICTを生かした学生の主体的な学びを引き出す教育支援を提示し、各大学へ還元することを期待		☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	
評価方法についても事例をもとに提言を期待		☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	

評価委員会からの改善提案（自己評価は、1～5の5段階で評価）

■取組全体

◆評価できる点など			
・各委員会からの細かな調査に対して各大学の協力があり、それぞれのテーマの分析から改善提案へとつながっていることは、連携のよさを発揮していることが評価できる ＜大学取組と連携との関係について＞ ・ 協働が深まった一年 ・ リーダー会は機能している			
H25年度改善提案に対するH26年度取組に対して			
◆今後の課題、期待点など	H26の対応	今期到達点	自己評価
企業に対して大学の人材育成への理解が深まるよう、情報の提供が十分でないため、次年度は積極的に情報提供していくことを期待		☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	
産業界とのネットワーク活用が今後の課題となる。プラットフォームがその基盤となることを期待		☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	
委員会の取組の学内への還元がこれからの課題		☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	
全大学自己評価の数値を集約して傾向を分析し、大学連携会議及び産学協働連携会議に提出するように！（H25年度でも）		☐ 事業実施（課題解決） ☐ 事業着手 ☐ 課題検討中 ☐ 課題未着手	

委員会別自己評価票

委員会	取組全体	25年度
-----	------	------

5：成果があった、4：やや成果があった、3：どちらともいえない、2：あまり成果がみられなかった、1：全く成果がなかった

評価内容		項目	総合評価	
1	具体的な取組内容	①産官学地域協働連携会議	5	
		②大学連携会議	4	
		③4つの取組テーマ	5	
		④府大・委員長会議	5	
		⑤産業界ニーズの反映	4 ※把握までいった	
		⑥合同フォーラム	5 ※滋京奈では大学取組パネルセッションを実施	
2	本取組の成果	学生	①自校以外のプログラム（他校、連携）に参加することで、社会で求められている能力について意識し、今大学で学ぶべきことが理解できるようになった	3
			②各大学の学生リーダーになり、合同フォーラムの企画運営に関わった学生がリーダーシップを学内で発揮できるようになった	5
大学		①本連携取組で設定している4つの取組テーマに対して、積極的に関わることができた	4	
		②産業界ニーズを継続してカリキュラム、教育手法・手段にいかす体制づくりができた	4	
企業		①産業界と一緒にテーブルで議論しあうことで、産業界ニーズを把握し、教育につなげていく道筋が明確になった	4 ※成果が見え始めている	
		②大学の学修と人材育成について、企業の理解が深まった	3 ※企業の理解を深めるような情報発信を志向する	
5	産業界等との連携協力	①本連携取組によって構築した産業界人材が活用できた	3	
		②各大学独自の産業界との連携が拡大・深化した	4 ※徐々に拡大実感あり	
6	連携への提供と大学への還元（A、B）	①大学の課題や成果を連携取組へ提供できた	5	
		②本連携の取組成果を大学に還元できた	4	
		③本取組成果が大学の教育改善及び体制整備につなげることができた	4	
7	継続性	①本連携取組によって、継続的な大学間連携を維持、強化することができた	4	
		②本連携取組によって、継続的な産業界等との連携を維持、強化することができた	4	
8	特記事項（自由記述）	・企業に対して大学の人材育成への理解が深まるよう、情報の提供が十分でないが、提供できる情報ができてきたことから、次年度は積極的に情報提供していく ・各委員会からの細かな調査に対して各大学の協力があり、それぞれのテーマの分析から改善提案へとつながっていることは、連携のよさを発揮していることが成果である <大学取組と連携との関係について> ・協働が深まった一年 ・産業界とのネットワーク活用が今後の課題となる。プラットフォームがその基盤となることを期待 ・リーダー会は機能している ・委員会の取組の学内への還元がこれからの課題 ・全大学自己評価の数値を集約して傾向を分析し、大学連携会議及び産学協働連携会議に提出するように！		

平成24年度 文部科学省 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業
「産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実」

委員会別自己評価票

委員会	テーマⅠ 教育カリキュラム体系構築委員会	25年度
-----	----------------------	------

5：達成できた、4：やや達成できた、3：どちらともいえない、2：あまり達成できなかった、1：全く達成できなかった

評価内容	項目	コメント	総合評価
1 具体的な取組内容	①各大学のキャリア教育関連カリキュラムの収集	24年度を更に発展させ 構成科目に踏み込んだ調査を実施した	5
	②領域・分野別の分類及び課題抽出	領域・分野別を越えた新たな4つの枠組みを調査し課題を抽出した	5
	③産業界ニーズの反映の在り方検討	ポイントの抽出ができた	4
	④カリキュラムモデルの策定	検討資料が得られた	4
	⑤合同フォーラム	—	—
2 産業界ニーズの反映	①産業界ニーズを取組テーマに反映できた	質問項目を抽出した	3
	②取組テーマや委員会等への産業界からの協力が得られた	産官学連携会議で意見交換した	4
3 連携への提供と大学への還元(A、B)	①大学の課題や成果を連携取組へ提供できた	調査結果を還元できた	5
	②本連携の取組成果を大学に還元できた	調査結果を還元できた	5
	③本取組成果が大学の教育改善及び体制整備につなげることができた	調査結果を還元できた	4
4 継続性	①本連携取組によって、継続的な大学間連携を維持、強化することができた	各大学から調査アンケートを回収	5
	②本連携取組によって、継続的な産業界等との連携を維持、強化することができた	産官学連携会議で連携継続を確認した	4
5 特記事項(自由記述)	カリキュラムモデル作りにむけての基礎資料を収集でき来年度へ向けての準備が完了した。キャリア専門講師養成の教師塾(仮称)の研修内容案の作成が完了し、産業界と協議する資料を作成できた。卒後教育に向けてのプラットフォーム構想についても検討を案を作成し、検討を開始した。		
6 その他評価			

平成24年度 文部科学省 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業
「産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実」

委員会別自己評価票

委員会	テーマⅡ 産官学地域協働委員会	25年度
-----	-----------------	------

5：達成できた、4：やや達成できた、3：どちらともいえない、2：あまり達成できなかった、1：全く達成できなかった

評価内容	項目	コメント	総合評価
1 具体的な取組内容	①各大学の産業界ニーズの情報収集	学生の現状を把握できた。	5
	②産業界からの産業界ニーズの情報収集	日本経済新聞社と共同で全国規模の調査を実施（642社1736名に実施）	5
	③共通課題及び個別課題の抽出	第1段階のまとめができた 今後さらに課題の抽出に努める	4
	④不足する産業界ニーズ情報の抽出	ニーズを抽出して調査を実施した	5
	⑤産業界ニーズ情報の各大学への還元	調査結果を各大学に提供して活用を待っている	3
	⑥ミスマッチとは何か？の検討	「ミスマッチ」の意味についてのコンセンサスを得て調査を実施	5
	⑦合同フォーラム	本委員会の結果を基にして合同フォーラムの開催につなげた	5
2 産業界ニーズの反映	①産業界ニーズを取組テーマに反映できた	反映ができた	5
	②取組テーマや委員会等への産業界からの協力が得られた	642社にご協力いただいた	5
3 連携への提供と大学への還元（A、B）	①大学の課題や成果を連携取組へ提供できた	大学、連携企業に情報の提供ができた	5
	②本連携の取組成果を大学に還元できた	調査結果を各大学に提供して活用を待っている	3
	③本取組成果が大学の教育改善及び体制整備につなげることができた	これからの課題である	3
4 継続性	①本連携取組によって、継続的な大学間連携を維持、強化することができた	大学・学生の現状を把握することができた	4
	②本連携取組によって、継続的な産業界等との連携を維持、強化することができた	次年度の取り組みで教育改善体制整備につなげる	4
5 特記事項（自由記述）	今後下記の事項の推進が望まれる。 1. 産業界人材ニーズ調査結果を各大学に提供し活用してもらう必要がある。 2. 産業界人材ニーズ調査結果を産業界に提供し活用してもらう必要がある。 3. ヒューマンスキルを育成する教育方法を研究する必要がある。 4. 産業界との連携による人材育成支援体制を推進する必要がある。 5. 大学間の連携による教育方法の相互交流を進める必要がある。 6. アクティブラーニングのためのプラットフォームづくりを推進する。 7. 各大学における全学機関で調査結果を報告し教員の教育改革に対する意識付けをする。		
6 その他評価			

平成24年度 文部科学省 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業
「産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実」

委員会別自己評価票

委員会	テーマⅢ 教育手法・手段開発委員会	25年度
-----	-------------------	------

5：達成できた、4：やや達成できた、3：どちらともいえない、2：あまり達成できなかった、1：全く達成できなかった

評価内容	項目	コメント	総合評価
1 具体的な取組内容	①各大学のインターンシップ・PBL事例の収集	グランプリ（取組1.1）、授業見学（取組1.3）を通し行った。	5
	②各大学のインターンシップ・PBL事例の分析	グランプリでの審査員や参加者との議論や、授業見学を踏まえた議論を行った。	4
	③課題抽出	グランプリの審査員や参加者との議論、授業見学、IS・PBL調査（取組3.2）を通し行った。	4
	④産業界ニーズの反映の在り方検討	グランプリでの審査員や参加者との議論、合同研修（取組1.2）、IS・PBL調査等を通して行った。	4
	⑤インターンシップ・PBLモデルの策定	合同PBL開発（取組2.2）でワーキンググループを立ち上げ、企画書を作成、企業とのコンタクトも開始。	4
	⑥合同フォーラム	テーマⅢ委員会としてIS・PBLグランプリを企画。IS・PBL調査の報告も行う。	5
2 産業界ニーズの反映	①産業界ニーズを取組テーマに反映できた	グランプリ、IS・PBL調査で産業界のニーズを把握、合同PBL開発に役立てた。	4
	②取組テーマや委員会等への産業界からの協力が得られた	グランプリで発表する各大学チームの取組に産業界が多く関り、審査員も産業界等から複数来て頂く。IS・PBL調査では約130社の企業・団体に回答頂いた。	5
3 連携への提供と大学への還元（A、B）	①大学の課題や成果を連携取組へ提供できた	グランプリ、授業見学等を通し、各大学の成果を合同PBL開発に活用。	4
	②本連携の取組成果を大学に還元できた	IS・PBL調査の結果を還元	4
	③本取組成果が大学の教育改善及び体制整備につなげることができた	共同FD、授業公開等	3
4 継続性	①本連携取組によって、継続的な大学間連携を維持、強化することができた	グランプリ、授業見学、合同PBL開発、芦屋大「仕事力育成講座」の参加。	4
	②本連携取組によって、継続的な産業界等との連携を維持、強化することができた	グランプリ、合同PBL開発などにおいて産業界との連携を強化しつつある。	3
5 特記事項（自由記述）	昨年度は各大学のIS・PBLの取組の概要についての情報を収集したが、今年度はグランプリや授業見学を通し、各大学の事例をより詳しく収集・情報共有し、議論した。 またグランプリの審査員や参加者との議論、IS・PBL調査を通じてIS・PBLの課題を抽出、産業界ニーズの反映のありかたを検討した。これらを踏まえ合同PBLの開発に着手した。来年度は合同PBLを通し、参加校のFD、本取組の学生への還元、GP後を見据えた産業界等との教育現場での連携の強化を目指す。		
6 その他評価			

委員会別自己評価票

委員会	テーマⅣ ICT活用委員会	25年度
-----	---------------	------

5：達成できた、4：やや達成できた、3：どちらともいえない、2：あまり達成できなかった、1：全く達成できなかった

評価内容	項目	コメント	総合評価
1 具体的な取組内容	①各大学のICT活用の情報収集	連係14大学に協力を依頼し、ICT活用や評価指標についてのアンケートを実施した	5
	②共通課題及び個別課題の抽出	活用事例等の調査を行ったが、今回は問題点の共有には、至っていない	3
	③効果的なICT活用に対する改善案の検討	該当する事案が存在せず	
	④評価項目（ループリック）づくり	日経人材力テストの活用などを含めて様々な検討を幅広く実施した	4
	⑤自己評価力の向上を促すICT活用モデルづくり（主体的な学びの向上）	モデルの作成の基礎となる評価手法や提示方法の議論が重要であり、その点の議論を行った	2
	⑥合同フォーラム	該当する事案が存在せず	
2 産業界ニーズの反映	①産業界ニーズを取組テーマに反映できた	評価指標の検討において、産業界への問い合わせなどを実施し、議論に反映した	4
	②取組テーマや委員会等への産業界からの協力が得られた	企業への質問票をお送りし、解答を得て議論に反映した	4
3 連携への提供と大学への還元（A、B）	①大学の課題や成果を連携取組へ提供できた	各大学の取組内容を委員会で議論し、連携会議で提案した	5
	②本連携の取組成果を大学に還元できた	共有した段階であり、それを具体的に還元するには至っていない	2
	③本取組成果が大学の教育改善及び体制整備につなげることができた	来年度の課題	
4 継続性	①本連携取組によって、継続的な大学間連携を維持、強化することができた	定期的に委員会を開催し、様々な意見交換を行うことができた	4
	②本連携取組によって、継続的な産業界等との連携を維持、強化することができた	評価指標議論などを通じて、産業界の意見交換を行い、今後の活用についての調整を行うことで、連携を築くことができた	3
5 特記事項（自由記述）	今年度の議論として、当初評価指標モデル作成を目標として設定していたが、本来の委員会の目的（評価体制づくり）や汎用的評価指標が困難なこと、各大学で学生に主体的学びをさせるためには、評価指標そのものの構築ではなく、評価方法に関する提案を行っていくこととした。また、連携14大学の事例の整理・分析だけでも十分な情報となりうることや、広範にわたる調査の足場がないことから、連携内の情報分析を委員会の活動目標とするとの結論に至った		
6 その他評価			